

全国漁業信用基金協会静岡支所

1. 静岡県の県勢

静岡県は、日本列島の本州のほぼ中央部に位置し、太平洋に面しています。県域の東西は155km、南北が118km、面積は7,777km²と全国で13番目の広さとなっています。また、人口は365万人で第10位です。

遠州灘、駿河湾、相模湾に沿った海岸線の総延長は506kmですが、汽水湖である浜名湖の湖岸141kmを合わせると647kmあり様々な漁業が行われています。



シラス船と富士山

県庁所在地は静岡市で人口は695千人、県内最大の市は浜松市で人口は794千人です。全国漁業信用基金協会静岡支所は、この静岡市にあり、静岡駅から約1km、徒歩15分程度の場所にあります。

静岡県の平均気温は15～16℃と温暖で、降水量は1800～2300mmと、全般的には温暖な海洋性気候です。冬は乾燥した晴天の日が多く、平地では雪はほとんど降りません。ちなみに、静岡市で前回雪が降ったのは2001年でその積雪は3cmです。

静岡市は東海道五十三次の19番目の宿(府中)で、江戸の日本橋から45里≒175km。現在では、新幹線で東京駅から180km、新幹線「ひかり」で約1時間の距離です。

歌川広重の東海道五十三次の浮世絵でいうと「蒲原 夜之雪」から静岡市に入り、「由比 薩埵峠」、「安倍川の渡し」と「安倍川もち」、「丸子のとろろ汁」が、現在の静岡市内になります。丸子には今でもとろろ汁を食べられる店があります。

山梨県との県境は、日本最高峰、標高3,776mの富士山(2013年6月に世界文

化遺産登録)、長野県との県境は3,000m級の南アルプスから、日本一深い駿河湾(水深2,500m)まで標高差6千メートル。

この日本一深い駿河湾で獲れるサクラエビ漁は2年前から不漁が続いています。

サクラエビ以外にも、シラス、キンメダイも不漁が続いており、去年はサバも大不漁でした。

科学的に何が原因なのか解明はできていませんが、原因の一つとして黒潮の大蛇行が考えられます。

通常黒潮は伊豆半島回りでは静岡県から離れて流れているのに、大蛇行により、紀伊半島回りで離れてから伊豆半島に向かうように流れているそうです。2017年から黒潮の大蛇行が始まり2020年の現在も続いております。

不漁と言え、静岡県では養鰻業が盛んで、全国的に言えば浜名湖のウナギが有名ですが生産量は全国で4位になっています。この養殖の原料となるシラスウナギが不漁で、成鰻価格が高騰しています。この影響で、総務省の2019年の家計調査で、浜松市の世帯当たりのウナギの蒲焼の購入額が16位に転落しました。前年まで11年連続で1位だったものが一気に16位とは驚きました。

ちなみに今年のシラスウナギは豊漁で12～1月の水揚げは、前年同期の10倍の漁獲量です。ただし、前年度は過去最低でしたから、これで回復するとは言えないでしょう。



近海カツオの水揚げ



冷凍マグロの水揚げ



キンメダイ

2. 静岡県の水産業

遠洋沖合では、イワシ、アジ、サバを獲る巻網漁業や、カツオ一本釣り漁業、マグロ延縄漁業が行われ、カツオ、マグロ類の水揚量は全国で1位となっています。

また、沿岸域ではシラスやサクラエビの「船曳網漁業」や「定置網漁業」、キンメダイ等をとる「たてなわ釣漁業」等が行われ、静岡県全体の漁業及び養殖業の生産量は208千トンと全国で5番目となっています。(平成29年)

静岡県は水産加工業も盛んで、水産加工品の生産量は141千トンあり、全国で2位の生産量があります。(平成30年)

あります。(平成30年)

静岡県信漁連では、漁業だけでなく水産加工業に対する融資推進を行っており、支所としても積極的に保証対応してきた結果、平成30年度末の保証残高合計約110億円のうち42億円(構成比38%)が水産加工業に対する保証となっております。



サクラエビ



シラス

3. 全国漁業信用基金協会静岡支所の概要

- 住所: 静岡市葵区追手町9-18 静岡中央ビル4階
- 電話: 054-251-0717 Fax: 054-253-6170
- 会員数: 418名
- 出資総額: 3,091,100千円
- 保証残高: 1,483件 1,101,504千円

- 担当理事: 山口保美
- 担当監事: 牧庸之輔
- 職員数: 4名

(平成31年3月末現在)

4. 今後の業務

昨今の様々な漁業種類での不漁により、通常の資金では経営を継続することが困難な経営体が発生しています。静岡県・静岡市は漁業者及び水産加工業者に対する運転資金に利子補給する等の支援をしており、支所としても金融機関と足並みをそろえて、漁業者の支援に協力してまいります。

また、不漁対策に限らず、漁業者のニーズに合わせた保証を積極的に行っていきます。保証残高については、静岡支所の保証残高は平成13年度末の209億円以降減少しており、110億円となっております。令和2年度には保証料率の引下げを行う等、漁業者の皆様にご利用し易い制度となるよう業務を進め、保証残高を維持してまいります。

平成29年4月に18協会が合併して全国漁業信用基金協会を設立して、早いもので3年が経過します。昨年の2次合併により、組織としては更になりましたが、合併効果の発現にはまだ届いていないと感じます。今後も本所・各支所と連携してより良い保証制度の提供に努めてまいります。

